

令和7年度 学校自己評価システムシート

本庄東高等学校

目指す学校像	建学の精神 本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地をつくり、人生に望みと喜びを与えるところである 教育方針 徳育、知育、体育を一体として生徒各自の個性を尊重し、自己の才能を十分に発揮させることに努める。 特に勤勉、愛情、聡明を信条とし円満な人格の向上を目指して愛情豊かに聡明で勤勉な性格の形成に努める。
重点目標	１．常により高い学習目標を掲げ、各自の進路希望の実現に向けた学習活動を支援できるよう努める。 ２．進路目標達成のための実力が身につくような授業を展開するようにする。 ３．学校行事や生徒会活動への積極的な参加と、行事を通してクラスの団結・融和を図る。

達成度	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

学 校 自 己 評 価							
	年 度 目 標				年 度 評 価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	年度末への課題と改善策
1	入学者の、ほぼ全員が大学進学を希望している現状を踏まえ、将来設計とそのため の勉強ができる大学に合格できるよう、学力を付ける。また、近年の社会から期待されている「非認知能力」(意欲・人との関わり方など)の育成を図る。	進路指導	担任・生徒との面談を通し、生徒の現状と将来の希望を把握すると同時に、精神面のサポートをする。模試を受験することにより、生徒各自の現在の実力と今後の学習目標を設定し、進路目標が達成できるように指導していく。また、進路講演会などを実施し、受験についての知識や職業観を身につけ、希望進路先の情報収集をおこなう。教員以外の大人(企業・卒業生)と交流する機会を作る。	将来設計や進路目標を明確化することができたか。オープンキャンパスへの参加、大学案内や情報誌などから、希望進路先での学習内容や就職先などの情報収集がおこなえたか。適切なタイミングで交流・発表を設定し、探究内容に助言できたか。	学級報告会や面談などで進路情報を提供し、生徒一人ひとりの相談に対応できた。また希望者対象の補習・講演会などに加え、1～3年生希望者対象に医学部ガイダンスを、1・2年生希望者対象に受験を語る会を実施し、生徒たちの学びの場となった。小論文講座・プレゼン・実技指導も充実し、今年度も多くの年内受験生のニーズに応えることができた。さらに今年度は探究学習を深化させ、1・2年は学年ごとに研究発表会まで実施することができた。	B	生徒一人ひとりが満足する進路実現に向け、現役合格率のさらなる向上と、国公立や私立大学への合格者の内容充実を図るようにする。そのために東大プロジェクト補習に加え、基礎的な内容の補習も一層充実させていく必要がある。早い段階からの受験に向けた環境づくり・意識づくりを継続的に行い、現役での志望校に合格できるように指導をしていく。
2	希望進路に合わせて、一貫・選抜・特進・進学とコース別クラス編成を行っている。今年度の入学生からは新コース制・類型制を導入し、2年進級の際に希望進路に合わせたカリキュラム選択をより柔軟に行えるよう変更した。 生徒一人ひとりの希望進路実現に向けた授業を展開する。	授業改善	教科内研修を充実させ、生徒の実情に合った授業を展開し、理解度を高める。 教科担当者どうしの連絡や授業研修など、横の連携を密にする。	計画的な授業展開を行い、履修者全員がより深く理解でき、その後の発展的課題に取り組める力を身につけられたか。	各教科において、授業担当者がコースの特色を把握し、生徒の実情に合った授業を行うことに努めた。 朝・帰りのSHRでの小テストも活用し、基礎学力の定着を図ることができた。 特に3年次においては、入試問題に対応した発展的な内容を授業で扱うことができた。	B	変化し続ける社会の中で、たくましく生き抜いてゆくための知識と思考力を授業を通じて養い、未来を担う人材としての意識と能力の礎を育むことができるよう、学びへの動機づけを高めてゆく。 2年次からの類型制導入が始まる令和8年度は、より希望進路に応じた授業が展開できるよう、更なる工夫と研鑽が求められる。
3	体育祭、学園祭、進路講演会や教育講演会、芸術鑑賞など多くの行事を実施している。これらの行事への参加からクラスや学年、生徒同士の理解と融和を図る。	学校行事	学校行事における目標設定を通じて、生徒間の理解と仲間意識を高める。	各行事に協調性をもって参加できたか。クラスや学年内での交流ができたか。行事後、事後指導を行い、次回の行事に向けた指導ができたか。	体育祭や学園祭では、生徒たちはクラスや学年・部活動との関わりの中で協調性を持って取り組むことができた。興味・関心に基づき行き先を選択できる研修旅行では、事前学習や事後の振り返りにより学びの意義を深めることができた。芸術鑑賞・教育講演会においては、文化的教養を身につけたり、自身の生き方や進路選択における考えを深めたりすることができた。	A	クラス・学年の融和を目標とし、生徒の思い出に残るさまざまな行事を開催していく。体育祭や学園祭については、さらに活気あふれる行事になるよう工夫していく。生徒のさらなる学びにつながるような行事開催も検討する。
4	多感な時期の高校生活のなかで、学業だけでなく、他にも打ち込めるものをもてるようにする。また、将来に向けても、多くの事柄にチャレンジする精神を養えるようにし、自立を促していく。	部活動	部活動へ参加することが負担となり学業に支障が出ないように、定期考査前の部員対象の質問時間の実施などを通じて、勉学との両立を図れるように配慮する。外部コーチへの指導依頼などを通じ技術の向上を図る。	自ら時間管理を行い学業と部活動のバランスを図り、文武両道を目指す。積極的に活動に参加できるような環境作りができたか。各クラブが上位大会への出場できるようになったか。	全校生徒の部活動入部率が、85%で運動部だけでなく文化部への入部が目立ってきている。また、入部している生徒の学習状況も概ね良好であり進路実績も各部成果を上げている。今年は運動部から現役で医学部に合格している。	A	限られた時間の中で、生徒各自が時間を工夫して文武両道を実践してくれている。今後は戦績にこだわらだけでなく、人間形成の場としての役割を重要視していくことも本校の部活動の意義でもある。